

# 【聽譯】 醉花

---



千切れた雲の隙間に 映 波雲飄過的空隙之間 掩

ゆる今宵の月は  
解けた帯によく似た 淡  
い花模様  
愛し君の唇が 口ずさむ  
手毬唄  
あの日の面影はもう 禍  
夜最後の果て

映出今夜明月  
恰似寬解下的腰帶上 淡  
雅花紋  
你可愛的小嘴 輕聲哼起  
童謠小調  
那日容顏已成爲 那夜災  
禍最後的結果

---

根雪の下で芽吹いた意思  
の  
蕾は何処で咲くのだろ  
う？  
差しのべた手の温もりは  
変わることなく

殘雪下破土而出的心意  
  
花苞又會在何處綻放呢？  
  
伸出的手 溫暖還尚未消  
散

---

失くした物を忘れ去るよ  
うに  
過ぎ行く四季の移ろいに  
道の端揺らぐ花よ 君は  
今何思う

就像要忘卻那些失去的事  
物  
四季輪轉交替不停  
路旁搖曳的花啊 你現在  
又在想什麼

---

遠く滲む縹色 流々と旅  
行く魚は  
「己が運命」と散りても  
羽瀬に惑いて

共長天一色的流水 絡繹  
不絕的魚群  
說是爲「自己的命運」而  
犧牲 卻是困入了魚簍中

---

葉黒無く脆く碎けた命  
（ツキ）の  
欠片は何処へ還るだろ  
う？

天翔けるその煌きは 語  
ることなく

飄渺而脆弱的這已經破碎  
的生命（殘月）  
碎片該歸還於何處呢？

曾經在天空翱翔時的輝煌  
也無人能訴說

---

共に朝まで話した夢を  
紙の小舟に浮かべよう  
長く続くこの旅路を 静  
かに見送って

一同徹夜暢談的夢想  
摺成小紙船浮在水面上  
這段漫長旅途 只能靜靜  
目送

---

君在りし日の あの彩り  
よ  
何時かまた音連れるよう  
に  
ぽつり、ぽつり 紡ぐ音  
靈 夜風に乗せて

你尚在時的 那片光彩啊  
要待何時才能傳來音訊  
一點一滴 紡出的音符  
乘上夜風

---

去りゆく物へ 捧ぐ思い  
の  
その儚さに止め処なく  
瞼から落ちる玉は 何故  
杯を染む

對遠去的事物 奉上思念  
這片虛無感無處可安  
眼角滑落的點滴 爲何濁  
了杯中酒

又是一首以《碎月》爲曲調填詞寫的歌呢，算上之前翻譯過的《愛き夜道》和《月見桜》這已經是第三首了，看來我真的很喜歡《碎月》的曲調呢。聽過之前這兩首的人大概會感覺出來，雖然三首歌有共同的曲調，卻有不同的曲風，大多東方同人的音樂都是如此，因爲原曲都是神主ZUN的遊戲配樂，沒有歌詞，於是同人創作者根據各自的理解重新演繹成不同的二次創作。某種程度上，這很像自由軟件社區呢。

標題「<sup>すいか</sup>酔花」，是個文字遊戲，因爲《碎月》這首曲調算是《東方萃夢想》的BOSS 伊吹萃香的主題曲，標題就是<sup>すいか</sup>萃香這個名字的不同漢字轉寫。

曲風用詞非常古樸，以至於只看到了兩個音讀漢字詞（「意思」和「四季」），別的漢字都是訓讀，甚至作者給出的訓讀表記的一些詞的漢字寫法接近萬葉假名，而非現代更常用的訓讀漢字，看來作者是想模仿中古時代那段時期的日語風格。這古風翻譯起來也更困難，於是照例，標假名的同時給出字詞解釋。

ちぎ くも すきま は ちぎ くも  
千切れた雲の隙間に映 千切れた雲：ちぎれ雲，  
ゆる <sup>こよい</sup>今宵 <sup>つき</sup>の月は 厚層雲下流動的斷片雲。

ほど おび に あわ  
解けた帯によく似た淡

はな もよう  
い花模様

いと きみ くちびる くち てまり うた  
愛し君の唇が口ずさむ手毬唄：手鞠歌，明治時期起小孩一邊玩手毬一邊

てまり うた  
手毬唄

唱的童謡。

あの日の面影はもう禍  
よもは  
夜最の果て

ねゆき した め ぶ いし  
根雪の下で芽吹いた意思の

つぼみ どこ さ  
蕾は何処で咲くのだろう？

さ て めく か  
差しのべた手の温もりは変わることなく

な もの わす さ  
失くした物を忘れ去るように

す ゆ しき うつ  
過ぎ行く四季の移ろいに

みち はじ ゆ はな きみ いま なに おも  
道の端揺らぐ花よ君は今何思う

とお にじ はなだいろ るる たび  
遠く滲む縹色流々と旅  
ゆく 魚は

直譯：遠去的淡藍色融入  
(天空)，匆匆趕路旅行  
的魚。

おれ さだめ ち  
「己が運命」と散りて  
はせ まど  
も羽瀬に惑いて

羽瀬：一種類似魚簍的竹  
製捕魚工具，漲潮時等魚  
游入其中，落潮時把魚困  
在裏面。

はかな もろ くだ ツキ  
葉黒無く脆く砕けた命

はかな  
葉黒無く：現代訓讀漢字

の

寫作「<sup>はかな</sup>儂く」，飄渺不定  
的。<sup>ツキ</sup>命：這裏命是当て  
字，讀作<sup>つき</sup>月。

<sup>かけら</sup>欠片は<sup>どこ</sup>何処へ<sup>かえ</sup>還るだろ  
う？

<sup>あま</sup>天<sup>か</sup>翔けるその<sup>きらめ</sup>煌きは  
<sup>かた</sup>語ることなく

<sup>とも</sup>共に<sup>あさ</sup>朝まで<sup>はな</sup>話した<sup>ゆめ</sup>夢を

<sup>かみ</sup>紙の<sup>こぶね</sup>小舟に<sup>う</sup>浮かべよう

<sup>なが</sup>長く<sup>つづ</sup>続くこの<sup>たびじ</sup>旅路を<sup>しず</sup>静かに<sup>み</sup>見<sup>お</sup>送って

<sup>きみ</sup>君在りし<sup>ひ</sup>日の<sup>いろど</sup>あの彩

りよ

<sup>いつ</sup>何時かまた<sup>おとつ</sup>音連れるよう  
に

<sup>おとつ</sup>音連れる：現代訓讀漢字  
寫作「<sup>おとず</sup>訪れる」，到訪，  
造訪。倒是原本的寫法「  
<sup>おとつ</sup>音連れる」更能體現「帶  
來音訊」的意思。

ぽつり、ぽつり <sup>つむ</sup>紡ぐ<sup>おと</sup>音

<sup>たま</sup>靈<sup>よ</sup>夜<sup>かぜ</sup>風に<sup>の</sup>乗せて

さ　　もの　　ささ　　おも  
去りゆく物へ　捧ぐ　思いの

はかな　　と　　と  
その　儂さに止め処なく

まぶた　　お　　たま　　なぜ　　さかずき　　そ  
瞼から落ちる玉は何故　杯を染む